

分類：NDC 010.59

件名：図書館一年鑑

図書館年鑑1983

定価 9,800円

1983年4月30日 発行

編集 社団法人 日本図書館協会
図書館年鑑編集委員会
発行 ©社団法人 日本図書館協会
東京都世田谷区太子堂1-1-10
電話 (03) 410-6411

JLA 8315

阿部写真印刷

ISBN 4 - 8 2 0 4 - 8 3 0 3 - X

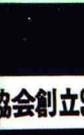
図書館年鑑

The Library Yearbook 1983

1983



日本図書館協会



写真でみる図書館界1982
 '82 Library Events in Photographs

社団法人 日本図書館協会
 創立90周年祝う
 The 90th Anniversary of
 the Foundation of JLA



②永井道雄日本図書館協会会長挨拶



①表彰を受ける功労者
 ③被表彰者を代表して

⑤全国から参集した被表彰者
 ⑥しめやかに物故者追悼



④永井会長と前会長の森戸辰男氏



歓迎

全国図書館福井大会

昭和57年度

昭和57年度 全国図書館大会



② 中川平太夫大会会長（福井県知事）挨拶



③ 李家栄中国国家図書館訪日団団長から『図書館学通訳』が福井県立図書館と日本図書館協会に贈呈される

① 歓迎広告塔も市内各所に



読書運動

- ④ 各分科会も活発に
- ⑤ 郷土芸能ばかばやし
- ⑥ 受付け風景
- ⑦ 予想を上回る1500人余の参加者で埋まる市文化会館ホール



⑤



⑥



⑦

図書館界あの日あの時

Scenes on the Libraries

- ① <於盛岡市>
- ② <於長野・長野町>
- ③ <於岡山市>
- ④ <於鳥取市>
- ⑤ 短大部会コンピュータ研修会
<於東京・社会文化会館>
- ⑥ 東海北陸地区公共図書館研究集
<於岐阜市>
- ⑦ 第3回図書館建築研修会
<於和歌山市>
- ⑧ 第12回私立大学図書館協会
中国・四国地区研究会<於徳島>



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



① アジア・オセアニア国立図書館長会議
〈於東京・国際文化会館〉

⑤ 日本図書館協会町村図書館調査
〈於北海道〉

② 同上レセプション

⑥ ⑦ 浦河沖地震で倒れた書架と復旧作業
（浦河町立図書館）

③ 〈於東京・経団連会館〉

⑧ 〈於京都市〉



①



②



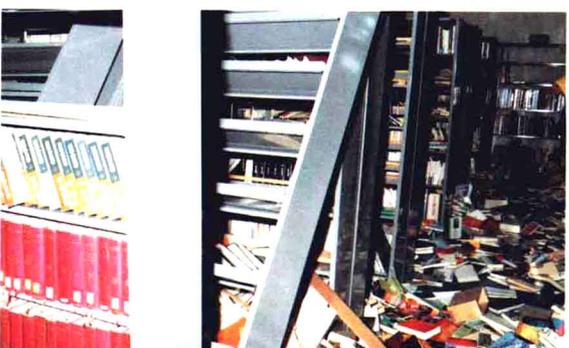
③



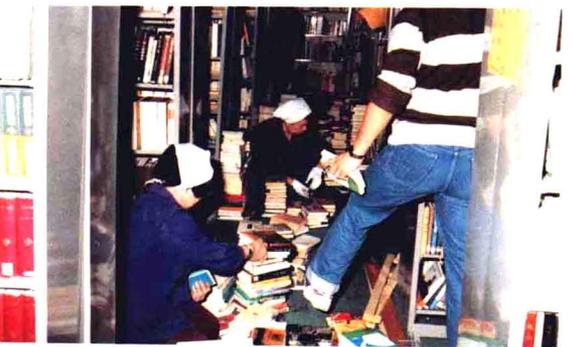
④



⑤



⑥



⑦



⑧

ポスターでみる図書館界1982

'82 Library Events in Posters



4月30日は図書館記念日 5月は図書館振興の月
図書館をもっと身近に暮らしのなかに

1



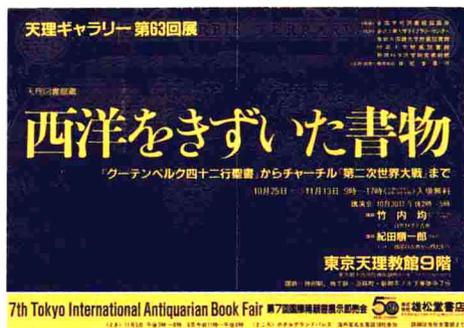
本ってね
とってもおもしろんだよ

読書でひろがる こどもの世界

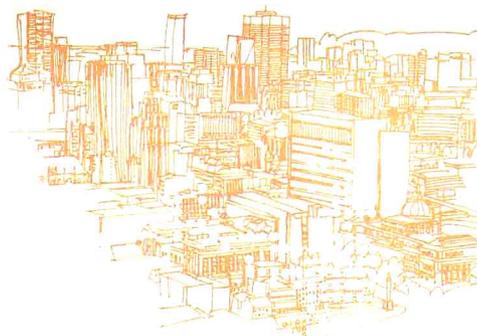
子どもの読書週間

5月1日→14日

4



2



この数字は、都内の公立図書館273館の蔵書の合計でも図書館のよき利用は、私達の生活を豊かにしてくれます。東京都議会は、都民のより文化的な生活のためにさまざまな問題を審議しています。

3



5

- 実寸
- ① 天地515mm × 左右729mm
 - ② 天地364mm × 左右514mm
 - ③ 天地515mm × 左右363mm

- ④ 天地364mm × 左右515mm
- ⑤ 天地844mm × 左右594mm

『日本の図書館』にみる大学・短期大学・高等専門学校図書館の蔵書冊数の変化 (1956~1981)

Growth of Volumes (1956-1981) ; University, College, Junior College and Technical College Libraries

(Referred to "Statistics on Libraries in Japan")

蔵書量の増大は短大、高専のデータに不備はあるが、昭和31年からみると全体で約5.2倍に達している。

館種別にみると、国立は約3.5倍、公立が約4.7倍、私立が7.1倍、短大は昭和36年から5.7倍、高専は昭和41年から7.9倍で、高専が最も多く伸びている。

1館当りの単純な平均冊数は、国立が最も多く約15万9千冊、公立が次いで多く約12万冊、次いで私立が10万8千冊、高専4万1千冊、短大が最も低く2万3千冊となっている。

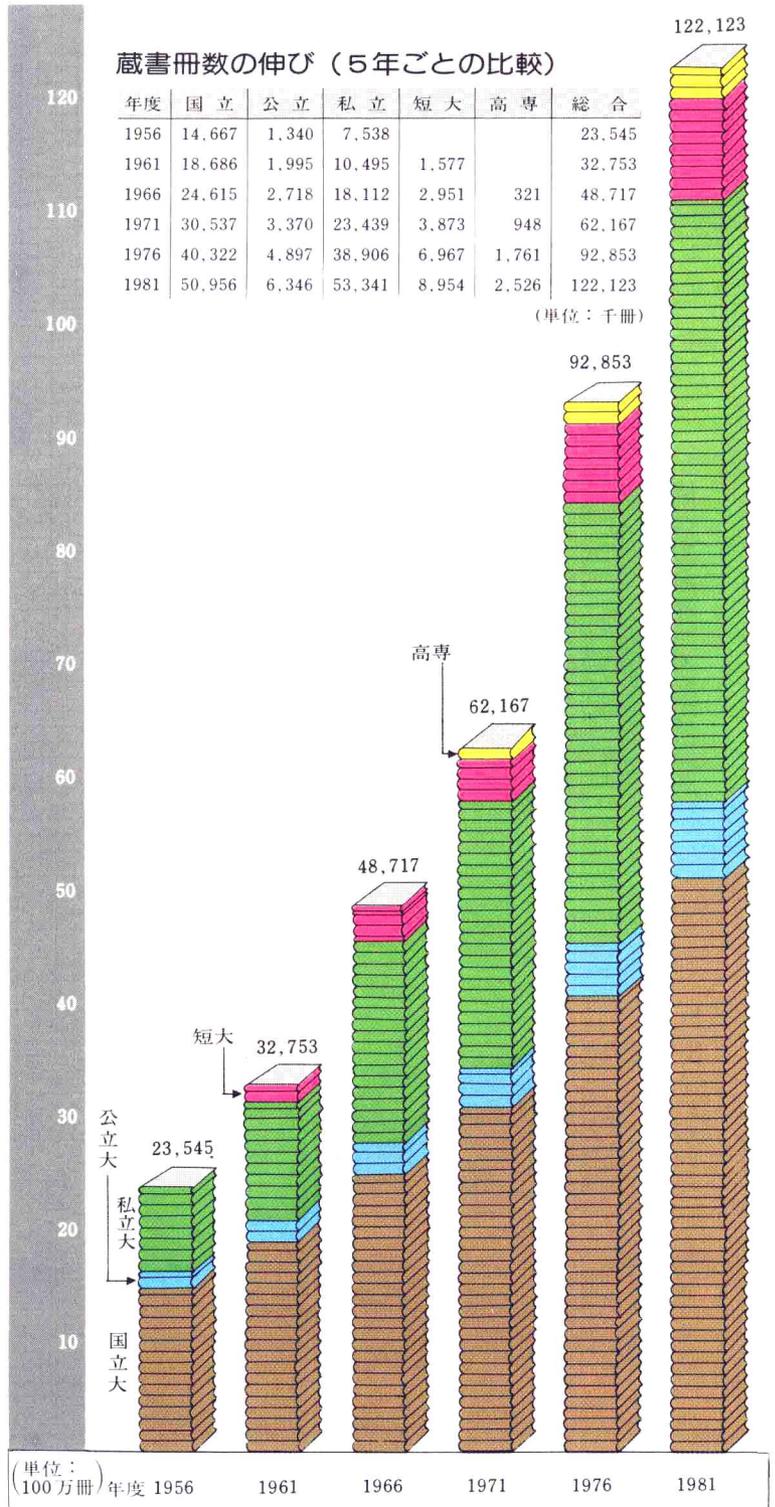
蔵書量を1冊当り2cmとして、富士山の横に積みあげると、富士山の646.8倍の高さになる。

又、横にして、線路の上に並べてみると(1冊を21cmと仮定)新幹線東京・博多間1,176.5kmの21.8倍、国鉄路線の全長約2万1千kmより約4,200km長いことになる。

蔵書冊数の伸び (5年ごとの比較)

年度	国立	公立	私立	短大	高専	総合
1956	14,667	1,340	7,538			23,545
1961	18,686	1,995	10,495	1,577		32,753
1966	24,615	2,718	18,112	2,951	321	48,717
1971	30,537	3,370	23,439	3,873	948	62,167
1976	40,322	4,897	38,906	6,967	1,761	92,853
1981	50,956	6,346	53,341	8,954	2,526	122,123

(単位：千冊)



(単位：100万冊) 年度 1956 1961 1966 1971 1976 1981

わが国の市区町村立図書館は、この15年間で文字通り面目を一新した。右のグラフはそれを見ごとに示す。このグラフにあるクラス分けの根拠と手法は次のとおりである。

社会教育審議会・施設分科会・図書館専門委員会が1972年（昭47）9月に発表した“望ましい基準”（案）は、重要な指標をいくつか提示しているが、その中から、市区町村立図書館として特に重要で、かつ数量的処理のしやすい次の2数値をとり、個々の自治体の図書館が（複数館なら合計して）これをどれくらい超えているか、または下回っているかによって、点数をつける。

基準 (1)年間収集冊数 人口の5倍
 案値 (2)年間貸出冊数 人口の2倍
 これを使って次のように採点する。

わけかた	点
基準案値の4倍以上	9
“ 3倍～ 4倍未満	8
“ 2倍～ 3倍 “	7
“ 1.5倍～ 2倍 “	6
“ 1倍～ 1.5倍 “	5
“ 0.5倍～ 1倍 “	4
“ 0.2倍～ 0.5倍 “	3
“ 0.1倍～ 0.2倍 “	2
“ 0.1倍未満	1
数値なし	0

なお双方が0.8～1.0未満の場合に限り、合計点を8でなく9とする。

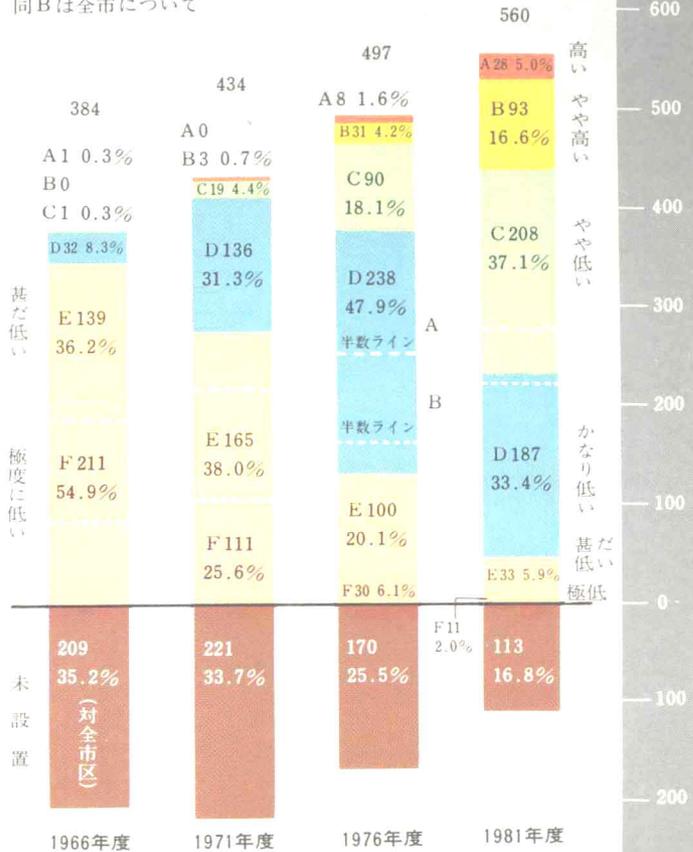
二つの点を合計したうえ、次の6クラスに分ける。

13以上	A	高い
10～12	B	やや高い
8・9	C	やや低い
6・7	D	かなり低い
4・5	E	甚だ低い
3以下	F	極度に低い

1966年にはA～Cクラスは僅か2市であった。それが1981年には329市区（対図書館設置市区58.8%、対全市区48.9%）になり、逆に、66年に54.9%もあったFは消滅寸前まで減少した。町村立図書館もやや遅れ気味ながら、同じ動向を示しているといえよう。

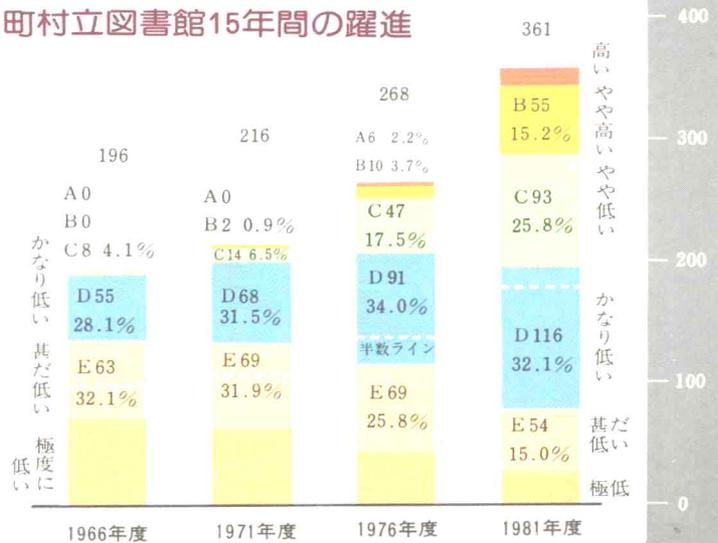
市区立図書館15年間の躍進

半数ラインAは図書館設置市について
 同Bは全市について



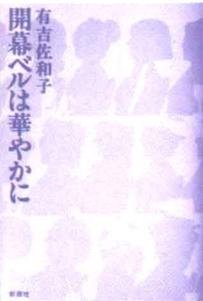
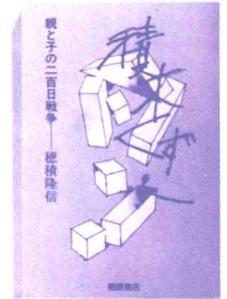
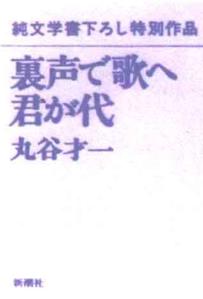
Rapid Progress of Municipal Libraries in the Last 15 Years

町村立図書館15年間の躍進



ひき続く出版不況のなかのベストセラー

Best-Sellers under the Depression in the Publishing Business



“ノンフィクション時代”を反映し、ミリオンセラーの上位5点はそれらの本で占められ、タレント本ブームなどの現象もみられる中で、純文学の世界では丸谷才一『裏声で歌へ君が代』が話題となった。

図書館年鑑1983について

A Guide to the Library Yearbook 1983

はじめに

この年鑑は、1982（昭和57）年1月から12月までに起った、わが国図書館にかかわるあらゆる事象を記録すると同時に、関連する資料を収録してあります。

本書の編集・執筆には、日本図書館協会を中心に、図書館界の各種関係団体、機関の組織としてのご協力のもと、それぞれの関連事項について、現在直接担当している方々等を委員とする編集委員会が当り、委員その他多くの協力者によって集められたニュースと資料とを構成し、わが国図書館の長い歴史をふまえ、現在を概観し、さらに未来の展望に役立つようにとの意図で編集しました。

情報化社会、あるいは生涯教育の時代といわれる今日において、図書館の果たす役割がますます重要になり、利用者・住民の図書館に寄せる期待が高まってきていることを、私たち図書館人は痛感しています。

図書館につきつけられているさまざまな要求に、どのように応え、実現していくのか。

各地の図書館員たちは、日常業務の実践を通じて、あるいは研究会などでの討議をふまえながら、営々とした努力を続けています。

『図書館年鑑1983』は、これら図書館界の動きを単に記録することのみにとどまらず、現代社会の中で図書館が置かれている姿を明らかにすることにより、なぜ図書館が必要なのかを浮き彫りにし、さらなる発展を期するための書となるものと確信しています。

構 成

大きく7編に分けています。

〈第1編 記録〉

1. 〈図書館年間史〉として1982年1月から12月までの図書館界の出来事と関係各界の主要事象を掲載。2. 〈各地各館の図書館行事及び図書館運営改善にかかわる動き〉として、各館で行われた行事や、日曜・夜間開館等、事務改善の努力のあとを紹介。3. 〈新しい図書館1982〉は、1982年に新設・新築された図書館の写真入り紹介頁。4. 〈テーマで追う各地の研究集会〉は、全国各地で行われた研究集会のテーマ別一覧。5. 〈図書館概況総説〉、

6. 〈ブロック別概況〉、7. 〈館種別概況〉、8. 〈問題別概況〉は、それぞれさまざまなニュースをもとに、図書館がかかえている問題は何かを概観します。

〈第2編 特集〉

1. 学校図書館法の30年

1953年8月8日公布された学校図書館法の成立までの経緯と、法改正運動の流れを中心に現在の学校図書館界のかかえる問題をまとめています。

2. 図書館関係団体紹介

わが国の図書館関係団体の設立目的や活動内容を詳細に紹介しました。

〈第3編 統計〉

1. 〈公共図書館統計〉 2. 〈大学・短期大学・高等専門学校図書館統計〉

毎年、日本図書館協会が行う全国図書館調査に基づく『日本の図書館1982』を素材として重要事項を取り出し、グラフ化したり、コンパクトな表に集約しています。

3. 〈学校図書館調査〉

全国学校図書館協議会が昭和55年5月1日現在で調査して刊行した「学校図書館全国悉皆調査報告」をもとに学校図書館の現況を一覧表として作成しました。

〈第4編 資料〉

図書館の関係法規と、1982年に出された声明や文書などが一覧できます。

〈第5編 書誌〉

1982年に出版された図書館関係図書・資料目録と、図書館関係雑誌目次一覧を掲載しました。

〈第6編 名簿〉

わが国で現在活動している公共・大学・短期大学・高等専門学校すべての図書館の住所と電話・館長名等と、『日本の図書館1982』の館種別データから基本的事項をピックアップし、一覧できるようにしています。

その他、主要専門図書館及び関係諸機関などが一覧できます。

また、図書館関係立法・行政管理者及び図書館関係の

表彰・物故の方々の名簿を加えております。

1983年版ではこのほかに、点字図書館の調査を行い、1982年版では掲載できなかった〈利用登録者数〉、〈職員数〉、〈点字図書・録音図書タイトル数〉なども掲載し、利用の便をよくしました。

使 い 方

次頁の目次の他に、各編ごとに中トピラを作っており、さらに小トピラを設けました。

また〈第7編〉を索引としました。

ご参照下さい。

本文記述中に右肩に*の付してある団体名などは、名

簿編に住所・電話番号等が掲載してあることを示しています。

また第1編の図書館年間史中、後ろに☆のある項目については、それについての資料が資料編にあることを示します。

その他詳しくは、各トピラの凡例を参照下さい。

『図書館年鑑1983』記載事項へのご質問は下記へ

〒154 世田谷区太子堂1-1-10

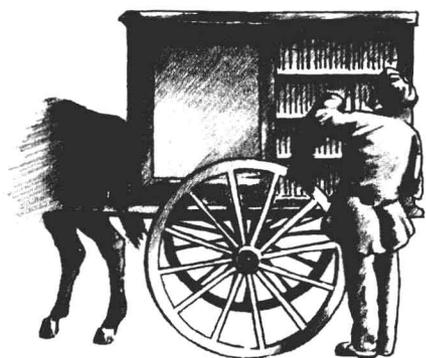
(社)日本図書館協会図書館年鑑編集部

TEL 03-410-6411

図書館年鑑1983

The Library Yearbook 1983

目次 Contents



●写真でみる図書館界1982年	3-7・10	
●市区立・町村立図書館15年間の躍進	8	
●『日本の図書館』にみる大学・短期大学 ・高等専門学校図書館の蔵書冊数の変化(1956-1981)	9	
図書館年鑑1983について	11	
第一編 [記録]	17	
1. 図書館年間史1982	19	
2. 各地各館の図書館行事及び図書館運営改善にかかわる動き	45	
3. 新しい図書館1982	61	
4. テーマで追う各地の研究集会	89	
5. 図書館概況総説	113	
6. ブロック別図書館概況	121	
(1)北海道	(2)東北	122・127
(3)北関東	(4)南関東	130・133
(5)東京	(6)北陸	137・142
(7)東海	(8)近畿	147・153
(9)中国	(10)四国	158・163
(11)九州・沖縄		168
7. 館種別にみた1982年の図書館概況	177	
(1)公共図書館	(2)大学図書館	178・186
(3)短期大学図書館	(4)学校図書館	190・194
(5)専門図書館	(6)国立国会図書館	198・204
(7)医学図書館	(8)薬学図書館	208・211
(9)病院図書室	(10)音楽図書館	213・215
8. 問題別図書館概況	217	
(1)図書館の自由をめぐる	218	
(2)図書館職員の問題	222	
(3)図書館員の養成と教育	226	
(4)図書館からみた児童青少年の読書	229	
(5)障害者サービスをめぐるこの一年	233	
(6)図書の整理技術と書誌情報	237	
(7)情報管理の新しい課題	241	
(8)図書館施設の問題点	245	
(9)図書館界の国際交流	249	
(10)図書館と出版流通	253	
(1)出版界の1982年	257	
(2)1982年の参考図書	263	

9. 図書館関係受賞者	271
10. 図書館関係物故者	277
第二編〔特集〕	279
1. 学校図書館法の30年	281
(1)戦後教育改革と学校図書館	282
(2)学校図書館法改正運動の流れ	289
(3)資料：学校図書館法改正運動の流れを知るために	293
(4)学校図書館法に思う①②	310-313
(5)学校図書館関係年表1945-1982	316
2. 図書館関係団体紹介	325
第三編〔統計〕	351
1. 公共図書館統計	353
(1)ブロック別にみる市区町村立図書館の概況	354
(2)政令指定都市の図書館	358
(3)公立図書館の蔵書冊数 (人口段階別上位20位 昭和57年度初めの実数)	360
(4)公立図書館の資料費決算額 (人口段階別上位20位 昭和56年度実績)	362
(5)公立図書館の館外個人貸出冊数 (人口段階別上位20位 昭和56年度実績)	364
(6)公共図書館集計1982	366
(7)公立図書館都道府県別集計1982	368
2. 大学・短期大学・高等専門学校図書館統計	371
(1)大学・短期大学・高等専門学校図書館集計1982 (I) (II)	372-374
(2)大学図書館経年変化1977-1982	376
(3)短期大学・高等専門学校図書館経年変化1977-1982	378
(4)経年変化解説	380
(5)グラフでみる各業務の実施状況 (昭和56年度)	383

(6)『日本の図書館』1953-1982にみる大学・短期大学・高等専門学校図書館	390
3. 学校図書館調査 ——全国SLA「学校図書館全国悉皆調査」から——	395
第四編〔資料〕	397
1. 図書館関係法規・宣言等	399
(1)図書館法	400
(2)身体障害者福祉法(抄)	401
(3)大学設置基準(抄)	402
(4)短期大学設置基準(抄)	402
(5)高等専門学校設置基準(抄)	403
(6)医学、歯学関係大学院設置審査基準要項(抄)	403
(7)薬学関係学部図書館設置基準	403
(8)学校図書館法	404
(9)国立国会図書館法	405
(10)日本科学技術情報センター法(抄)	407
(11)文部省設置法(抄)	408
(12)文部省組織令(抄)	408
(13)図書館の自由に関する宣言1979年改訂	410
(14)図書館員の倫理綱領	411
2. 図書館及び関係機関団体の声明・文書・答申・決議等	413
(1)国の図書館施策と振興への課題提起等	414
①公共図書館のサービス指標及び整備基準(案)	414
②大学図書館基準	416
③図書館・情報学教育に関する基準およびその実施方法	420
④行政改革に関する第3次答申(抄)	421
⑤公立図書館整備に関する補助金について陳情	422

(2)地域(県等)及び個別図書館振興についての提言・要望等	423	⑦ 大学図書館の地域公開について	457
① 図書館サービスのネットワークのあり方に関する具体的・実証的研究(抄)	423	⑧ 国立国会図書館関西プロジェクト調査会規則	458
② ネットワーク整備について陳情	427	(5)図書館の自由と情報公開	459
③ 山口県公共図書館の振興に関する要望書	428	① 貸出し業務へのコンピュータ導入に伴う個人情報の保護に関する基準	459
④ 学校図書館のネットワークについて——寄託図書館の現状と課題——(抄)	429	② 金山町(山形)公文書公開条例	459
⑤ 学校図書館の事務担当職員の配当、図書購入費増額について(要望)(抄)	432	③ 蒲原町(静岡)情報公開条例	461
⑥ 公立図書館サービスのネットワークに関する研究(抄)	433	④ 緒方町(大分)公文書公開条例	462
(3)図書館建設・施設改善等についての住民(運動)の要望	439	⑤ 埼玉県行政情報公開条例	463
① 「関市立独立図書館建設促進に係る署名」の趣意書	439	(6)書誌情報と出版界	465
② 仙台市の図書館行政に関する公開質問状(その2)	439	① 出版情報ネットワークシステム実行委員会正副委員長会記録(抄)	465
③ 庄原市における市立図書館の整備に関する陳情書	441	② 新媒体研究について中間報告書(抄)	466
(4)図書館運営改善のための資料	442	(7)図書館界への要望・意見・その他	467
① 国立国会図書館の将来構想についての提言<中間報告>	442	① (障害者サービスに関する)要望書	467
② 都立図書館の体系化及び近代化に関する答申(抄)	444	② 戦争核兵器に反対するアピール	468
③ 東京都多摩教育センター(仮称)基本計画概要(抄)	449	③ 人名の母国語読みについて	468
④ 図書館総合管理電算化に関する答申(抄)	451	3. 図書館関係国家予算 昭和57年度	469
⑤ 神戸市立中央図書館、神戸市立工業高等専門学校図書館間における図書資料相互貸借に関する申合せ	456	(1)(国会所管)国立国会図書館予算	470
⑥ 図書館の相互利用に関する協定	456	(2)公立図書館にかかわる文部省社会教育関係施策	470
		(3)大学図書館関係文部省予算の重点施策	470
		(4)科学技術情報関係予算	472
		(5)東京都都区財政調整 昭和57年度(抄)	474
		(6)昭和57年度地方交付税(社会教育関係分)単位費用算定基礎	477
		第五編 [書誌]	481
		1. 図書館関係図書・資料目録1982	484
		2. 図書館関係主要雑誌目次一覧1982	488